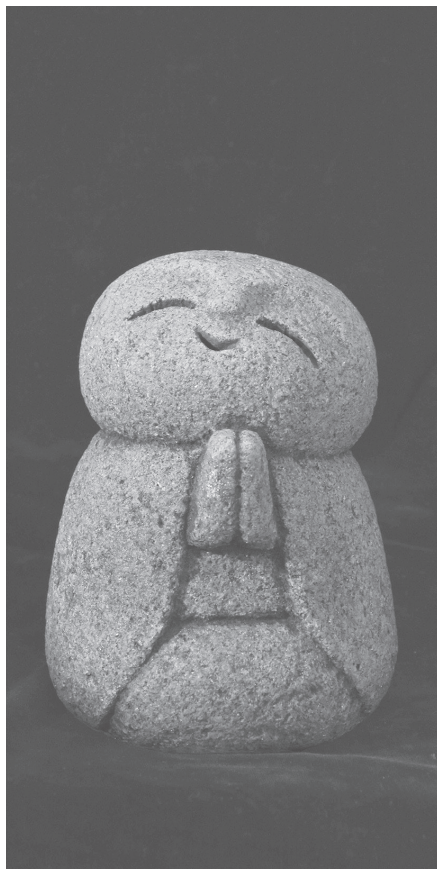


仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

ご先祖さま ありがとう



お正月

『新年おめでとういいます。』

新しい年の初めを迎えて、神仏に一年の幸せを祈ると共に、「ご先祖さまに対して「ご先祖さまありがとう」と感謝の誠を捧げましょう。

自分が今あるというのはご先祖さまのおかげであり、一番近いご先祖さまは父母、その次が祖父母と、さかのぼれば何代ものご先祖さまとつながり、もつともつとさかのぼれば地球の命とわが命はつながっているのです。何十億年も何百億年もかけたわが命がここにあることは、何と有難く尊いことではありませんか。

日本のお正月には鏡餅をお供えます。鏡

餅は下に親餅、上に子餅が重なっています。

これはご先祖さまが代々築いていただいたお徳により、子々孫々に幸せが重なりますようにと言う願いを込めた縁起であり、また親餅のご苦労の上に子餅が乗っていることを表しているのです。そして、ご先祖さまのお徳を子どもに譲るという意味で、重ね餅の上に柚子ゆずを乗せます。こうして子々孫々お徳が積み重なり、幸せが続くように新年を祈るのでございます。

人の徳

『あの人は徳のある人だ』と言われる人がいます。『運のいい人だ』と言われる人もいます。何をやっても成功する人がいます。それらはその人に生まれながらに備わっている

お徳のおかげであり、ご先祖さまがまいた善い種の功徳のおかげなのであります。決して、その人一人の力ではありません。人柄や人徳や運や成功は九分九厘ご先祖さまからいただいたものです。これを、自分の力だと勘違いしてうぬぼれてはいけませんのであります。単にラッキーと受け止めてはいけません。

道元禪師さまは『積善山上一塵なお積むべし』とおさとしになつておられます。ご先祖さまからいただいた徳の上に自分もさらに少しでも善行を積み重ね、それがまた子孫にそして後世に『徳』としてつながっていくようにしなければならぬのであります。

今は、住宅事情が改善し、一代家族となり、昔のような先祖代々からの家族制度は無くなりつつあるようにも見えますが、それは社会

の制度や表面上のことで、血を受け継ぎ、徳を受け継ぐ先祖より子孫への生命のつらなりは一代のものではないのです。世のため人のために尽くした先祖のお徳は、目に見えぬ因果の理法によつて子孫の徳に受け継がれるのです。

ところが『徳を損する』ということは、ご先祖さまからいただいたお徳を、自分のものとうぬぼれてほしいままにすることで、そのような場合は、それこそその人一代でお徳を使い果たし、ぶち壊してしまうのであります。

先祖のお徳を有難く、つつしみぶかくいただいて、自分も出来るかぎり善い種をまかねば、運勢の花は開かず、徳の実も実らないのであります。子々孫々に幸せが続かないのであります。

善い種をまこう

種をまけば芽が出て花が咲き実が結ぶように、人が善い行いの種をまけば、善い芽が出て、善い人生の花が咲き、善い人生の実が実ることをお釈迦さまは発見されました。それを『因果の理法』と申します。

道元禪師さまも『因果の道理れきねん歴然として私なし 造悪の者は墮おち、修善の者は陞のぼる、毫釐りも忒たがわざるなり』と厳然として示されておられます。仏教信者はこの因果の理法を信じて、日々善い種をまかせていただくのです。

地位や名誉や財産はあの世へ持っていきません。財産はいずれ失われます。しかし先祖が遺した善行の種は絶対に失われず、子々

孫々に花と咲き実を結ぶのです。『あなたの祖父さんのお世話になりました』『あなたのおばあさまのおかげさまで』と子や孫は先祖の徳を頂くのです。まして、親が善い行いをしていることを子どもは見えています。それはそのまま子どもの中の種とまかれて、子どもの心に花と咲くのです。そう思うと善いことがしたくてたまらなくなりませんか。

ご先祖さまありがとうございます、自らは善い種をたくさんまいて、善い先祖となり、子どもたちにそして地球上にたくさんのお徳を遺しましょう。それは家族だけではなくみんなの幸せとなるでしょう。

『ご先祖さま ありがとうございます』